

社会福祉士国家試験の在り方に関する検討会（第3回） 議事概要

- 関係団体等から意見聴取を行うとともに、これまでの議論を踏まえた見直しの方向性について検討を行った。

- 関係団体等からの主な意見
 - ・ 社会福祉士への社会的な期待の高まりと今後の福祉人材の確保の観点から、より多くの社会福祉士を社会に輩出できる国家試験制度とすべき。
 - ・ ソーシャルワーク専門職として必要な価値・倫理、実践モデルやアプローチ、制度・サービス等に関する基礎的な知識を有すると認められる者全てが合格できる国家試験問題とすることが必要。
 - ・ ソーシャルワークの実践を行う上で必要不可欠な知識及び技術に焦点を当て、実践の場面での判断力を問う内容にしていく必要がある。
 - ・ 幅広い視点からアセスメントしていく力や、緊急性や優先度を判断する力、連携する関係者との調整力等を問う問題を出題していただきたい。
 - ・ 社会福祉士は様々な学問に触れる必要があることから、国家試験においても、そういったことを意識させることも方法の一つ。

- 見直しの方向性に関する構成員からの主な意見
 - ・ 社会福祉士として資格取得時に最低限備えておくべき基本的な知識を問う問題を出題すべき。
 - ・ 社会福祉士として必要な判断力や解釈力を問うことができる問題を出題すべき。
 - ・ 試験日程の見直しや出題数の削減等によって、受験者に過度の負担や不利益が生じないように配慮すべき。